

## 常陸大宮市の魚たち

私たちの住んでいる常陸大宮市には、栃木県的那須を水源とする那珂川と、福島県の八溝山や阿武隈高地を水源とする久慈川の大きな川が流れています。また、両河川には、支流となる小さな河川が数多くみられます。

今回の市史の自然編の調査では、常陸大宮市内にどのような魚が何種類生息しているのか、そして茨城県全体からみて、どんな特徴をもっているのかを調べています。また、減少している絶滅危惧種や、魚と人の関わり（漁労や方言）についても調べています。

1996年から継続している調査では、那珂川水系からは約150種類、久慈川水系からは約100種類の魚を確認していますが、これは、川の源流部に生息するサケ科の魚から、下流や河口部に姿をあらわすハゼ科やスズキ、ボラなど海魚を含めた数です。

このうち、常陸大宮市内を流れる那珂川や久慈川の本流とその支流からは、50種類以上の魚類を確認しています。現在までに分かっている特徴として、支流の沢にはヤマメやカジカが生息していることや、中流の流れである那珂川や久慈川の本流とその支流の緒川や玉川、枇杷川や久隆川などの支流には、アユやウグイ、カマツカ、ヒガシシマドジョウなどの清流に多い種類の魚が生息していることがわかりました。



▲久慈川水系のアユ



自然部会専門調査員 稲葉 修  
(飯館村教育委員会、  
福島県希少野生動植物保護アドバイザー)

また、かつては普通にみられたホトケドジョウやギバチ（地方名・ギギ、ギンギョ）、シマヨシノボリ（地方名・ヨメサマカジカ）など、茨城県内として減少している魚種もみられました。

一方、最近では、外来のオオクチバスやコクチバスなどのブラックバス類が増加しており、これは社会的にも大きな問題となっています。

今後、常陸大宮市の魚類調査を継続していく上で、地域の人々からたくさんのことを教えていただき、漁業組合の皆様のご協力をいただきながら、市内の川と魚を通した常陸大宮市の環境と未来、地域づくりについて考え、地域の皆様にご提案やご相談ができるようにしていきたいと思っています。川で調査する姿を見かけましたら、ぜひお声がけください。

### 探しています！

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。

お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）